

1 千葉県臨床検査技師会検査値統一推進事  
2 業報告 4.チリトロール使用施設からの報告 2  
3 当院におけるチリトロールの活用状況について  
4

5 ○清宮朋子 佐藤正一（千葉県救急医療センター  
6 検査科）  
7

8 **【当院における生化学検査体制】**

9 当院検査科では 24 時間体制で同一の検査を実施  
10 する必要があるため、2 交代制の業務体系をとって  
11 いる。したがって 1 台の分析装置を複数の担当者が  
12 交代制で管理する必要があり、このような状況下で  
13 いかにか安定した検査結果を臨床側に提供できるかが  
14 課題であった。近年チリトロールが液状化されて使  
15 用が簡便になったため、現在では生化学検査の精度  
16 管理の軸として活用している。

17 **【チリトロールによる日常の精度管理方法】**

18 (1)使用方法：-80℃で保存しているチリトロール 1  
19 瓶を恒温槽にて溶解・混和後 350  $\mu$ L ずつ 8 本に小分  
20 し、-20℃にて保存。これを毎朝 1 本ずつ取り出し恒  
21 温槽にて溶解して使用している。(約 1 週間で消費)。

22 (2)測定機器および測定項目：日立 H7180 形自動分  
23 析装置 (Ca・Glu・T-BIL・T-Cho・TG・HDL・LDL・TP・  
24 ALB・CRP・UA・BUN・CRE・AST・ALT・ $\gamma$ -GT・ALP・  
25 LD・CK・ChE) および SIEMENS Dimension RxL Max  
26 (Na・K・Cl・AMY・Fe・Mg・IP)

27 **【精度管理結果】**

28 H23.10 における 1 ヶ月間のデータは、定量成分 13  
29 項目では CV 0.7%~4.2%、また酵素成分 7 項目で  
30 は CV 0.9%~1.8%であり、いずれの項目においても  
31 チリトロールの認証値にほぼ近似していた。

32 **【まとめ】**

33 当院では毎日分析担当者が変わり、日々の管理血  
34 清データの有意な変化をとらえることが難しかった  
35 が、チリトロールを精度管理の軸として用いるこ  
36 により、この値が認証値からずれたら何か問題が  
37 あると考えて行動をおこすことができるようになった。  
38 担当者の意識・測定精度・正確性の向上に役立  
39 っていると考える。連絡先：043-279-2211(内)430